



愛知民医連 介護職部会

介護職員 やりがい事例集

2021年度版



はじめに



介護職部会 部会長 亀井 昭彦 (2021年度)

医療・介護現場では新型コロナウイルス感染拡大により、現場ではこれまで以上に厳しい状況が続いています。入所施設で働いておられる方は、業務の緊張感そして家族、友人等との交わりを制限された生活により、心身ともに疲弊されていると思います。通所・訪問リハビリテーション利用者も、施設内での活動機会の制限や、感染対策生活、通所の利用控えによる身体機能の低下がみられる方、家族との面会制限や交流が減ったことによる抑うつや認知機能の低下などが生じている方も少なくないと思います。一方で、通常に近い医療・介護を継続すべく、創意工夫をこらし、一人ひとりの行動、施設運営、環境調整、そして会議、教育、家族、地域とのつながりかたなどで、変容、変革もされてきたと思います。新型コロナウイルス感染拡大前とは全く違う日常となったのではないのでしょうか。

県連介護職部会では、コロナ禍において、発信できることを模索し、介護の現場において感動した出来事や、心に残った利用者様とのふれあいなどの具体的事例を通じ、介護のやりがいを見つめなおし、離職の防止や介護職の専門性、機能向上につながる事をめざして、2019年度に続く冊子「介護のやりがい事例集・第2集」の発行に取り組むことにしました。



民医連の介護・福祉の理念



私たちは、民医連綱領を実現し、日本国憲法が輝く社会をつくるために、地域に生きる利用者に寄り添い、その生活の再生と創造、継続をめざし、「3つの視点」と「5つの目標」を掲げ、共同組織をともにとりくみます。

● 3つの視点

- 1 利用者のおかれている実態と生活要求から出発します
- 2 利用者との介護者、専門職、地域との共同のいとなみの視点をつらぬきます
- 3 利用者の生活と権利を守るために実践し、ともにたたかいます

● 5つの目標

- 1 【無差別・平等の追求】
人が人であることの尊厳と人権を何よりも大切にし、それを守り抜く無差別・平等の介護・福祉をすすめます
- 2 【個別性の追求】
自己決定にもとづき、生活史をふまえたその人らしさを尊重する介護・福祉を実践します
- 3 【総合性の追求】
生活を総合的にとらえ、ささえる介護・福祉を実践します
- 4 【専門性と科学性の追求】
安全・安心を追求し、専門性と科学的な根拠をもつ質の高い介護・福祉を実践します
- 5 【まちづくりの追求】
地域に根ざし、連携をひろげ、誰もが健康で、最後まで安心して住み続けられるまちづくりをすすめます

2012年12月14日

全日本民主医療機関連合会 第40期11回理事会

私が介護を続ける理由

みなと医療生活協同組合
介護老人保健施設 あつたの森
介護福祉士 米田 大樹



私が介護福祉士になろうと思ったきっかけは、中学を卒業し高校に進学する時でした。はっきりとした将来の夢もなく、偶々見つけた、介護福祉士を目指す高校を目にした事がきっかけです。

高校で介護について学習し卒業後、18歳で介護福祉士として就職しました。最初は右も左も分からない状態でしたが、必死になって業務を行っていた事を覚えています。

ある時、一人の男性利用者様と出会いました。元々日本の方ではなく、中国で生活されていた事が多い方でした。言葉の壁もあり介護を拒否される事もありました。

ただ、私がその方の息子様に似ていた様で、好意を持って接して下さいました。ご家族様からも「本当にそっくりだから、勘違いしてるのかもしれないですね」と写真を見せて頂いたのを覚えています。息子様は中国に生活されており、中々会えないとの事でした。

そこから、息子のように、その男性利用者様に関わっていくことになりました。

会う度に満面の笑顔で手を差し出されて、私の事をいつも息子様だと思って接して下さいました。

ご家族からも「本当にいつも、息子の様に関わってくれてありがとう。面会に来るといつも、『息子が来た』って喜んで話してたんです。本当にありがとう」と何度も仰って下さいました。

その時の“ありがとう”の言葉で介護をやっている良かったと心から思いました。

介護は辛い事や大変な事が多く悩む事も多くありました。

しかし、これまで介護の仕事をしてこれたのは、利用者様やご家族様から“ありがとう”と言ってもらえたからだと思っています。

これから先も自分自身が出来る事を精一杯やり介護を続けていきたいと思っています。



在宅復帰に向けて

みなと医療生活協同組合
介護老人保健施設 あつたの森
介護福祉士 濱崎 智恵



私が介護の仕事をはじめ、13年程経ちました。中学3年生の頃から、人の役にたつ仕事をしたいと思い、介護の仕事を知り、介護福祉士を目指しました。この仕事を始めてから、思い出に残っている事は、入所されていた利用者様が、多職種の協同によって、在宅復帰された事です。

I様は、夫様と2人暮らしで、自宅で数回も転倒があり、入退院を繰り返していました。最近では自宅で生活している時間が入院している時間より短い状態でした。I様が当施設に入所された時に、I様も夫様も自宅での生活を望まれていました。在宅復帰グループを立ち上げ、多職種で週に1回15分のカンファレンスを開催し、現在までの準備状況の確認や今後の方向性について話し合いました。

居宅ケアマネや相談員と協力して、何かに取り組むことが私自身初めての経験でした。週1回のカンファレンスでしたが、お互いの情報を共有し、今後どの様に取り組むかを話し合いました。I様は、オムツを使用されていたので、夫様に対しオムツの当て方の指導も行いました。

また、在宅生活の練習で一泊二日の外泊も行い、外泊での様子をカンファレンスで話し合いました。退所されるまでに、4回のカンファレンスを行い、4回目はI様と夫様にも参加して頂きました。

退所後、I様は「自宅に戻れて本当に良かった」とおっしゃられ、その言葉を聞いて、取り組んで良かったなと思いました。

また、一人でも多くの方が住み慣れた家で過ごせるように、これからも取り組んでいきたいと思いました。



介護と笑顔

みなと医療生活協同組合
介護付有料老人ホーム 虹の郷
介護福祉士 伊藤 昌行



私が介護の仕事をして始めて四年が経った頃の話です。

日々、業務に追われて入居者様に笑顔で接することができず悩んでいました。その時、出会った入居者様がS様でした。S様は車いすで両手足に痛みがあり、自由に動かすこともままならない状態でした。それなのに、いつも笑顔で挨拶をして、周囲に冗談を言って笑わせる明るい方でした。

はじめは、仕事をする中での関わりでしたが、ある日S様から「元気がないようだけど体調とか大丈夫なの？」と気にして話しかけてくれたことがきっかけで、私も自分の事を話すようになりました。

それから、日々の生活の中で深く関わるようになり、いろいろとお話をするようになりました。お互い読書好きであることもわかり、お薦めの本を紹介しあうようにもなりました。そのうち、S様を通じてご家族とも話をするようになり、「いつもよくしてくれてありがとう。」と感謝の言葉をいただけるようになりました。

その時入居者様だけでなく、ご家族からも感謝されることが自分にとって、どれだけ仕事をしていく上で力になったことかわかりません。

休み明けで出勤すると、S様が入院されたことを知りました。数日後、荷物を取りに来られたご家族から、S様が「伊藤さん元気かな？と気にしていましたよ。」と聞きました。入院中で自分の体調が悪いにも関わらず、こちらを気遣ってくれたことが嬉しく思いました。

S様と出会い、相手への気遣いを忘れないことが大切だと気づきました。

この経験から、入居者と真摯に向き合うことで自然と笑顔がこぼれる今の私の介護へとつながっています。



その人らしい笑顔が 見たいから

みなと医療生活協同組合
虹の郷 デイサービスセンター
介護福祉士 日比 芳子



「お姉ちゃん、信州長野の善光寺」

だんまりだった利用者様の素敵な笑顔に出会った瞬間。これが私の介護の仕事の始まりです。それから25年間、たくさんの利用者様から素敵な笑顔を受けてきました。

デイサービスに通う熊本出身のAさんは、息子さん家族と暮らしています。腎臓カテーテルが背中左右から1本ずつ出ています。ご本人はカテーテルが外れたら熊本に帰れると思っていました。

体調不良で入退院を繰り返すと場所の混乱が起きました。Aさんの様子を観察しながら、ご本人の得意なことや、興味のある田舎での話を引き出してみると、穏やかな表情で「ここは病院じゃなかね。」と理解されました。

徐々にお話しにもユーモアが出て、デイが過ごしやすい場所だと思っていただけようになりました。しかし入浴は毎回「痛かよお。入ると病気になるけんね。」と、嫌がられました。カテーテル部分を綺麗にして、ガーゼ交換することの説明でなんとか入浴すると、「ああ～、気持ちよかとよ。」お風呂に入ってしまったばいのです。

この日も入浴を嫌がっていました。私を見るなり、「ああ～、あんたおったね。おらんと思った。」お話を伺うと、私のことを女学校の友人だと思い込んでいると分かりました。「あんたが言うなら、入っとかね。」私はホッとしたと同時に、笑いがこみ上げてきました。

自分の居場所も、いま何をしているのかも忘れてしまう。ご本人にとってはとても不安なことです。それでも、楽しい・声に出して笑える、なんとなく頼れる人が傍にいるから安心する。そんなその人らしい生活の中で、毎日を笑って過ごして頂けたらとても嬉しいです。

私はそんな笑顔と笑いのある介護がとても好きです。そして、これからもそんな笑顔と笑いの絶えない介護を続けていきたいと思っています。



わたしが介護を 続ける理由

北医療生活協同組合
生協わかばの里介護老人保健施設
介護主任 永井 浩晃



私が介護の仕事に興味を持ち働くきっかけになったのは、転職活動中のある日、祖母と一緒にデイサービスの迎えを待っていました。迎えに来てくれた職員の方は「おはようございます」と笑顔で元気に挨拶をしてくれました。祖母も笑顔で「おはようございます」と挨拶をし、嬉しそうに車に乗っていきました。

私の以前の仕事は工場勤務で仕事中は黙々と毎日似たような作業をしていただけでした。そんな毎日がとても退屈でやりがいも感じられず1年程で退職してしまいました。自分がやりたい事もわからず、「仕事とはつまらないモノだ」と思っていた自分には笑顔で挨拶をしているデイサービスの職員の方が輝いて見えました。

「なんで仕事なのにそんなに笑顔になれるのだろうか?」「介護という仕事はそんなに楽しいものなのか?」と興味を持ちました。そのことがきっかけで介護の仕事を始めました。気付けば10年程介護の仕事が続けています。10年の間に「大変だな。疲れたな」と思うことは正直ありました。しかし、「辞めたいな」と思うことは一度もありませんでした。むしろ、自分のやりたい仕事が「介護」になっていました。

そんな介護の現場では日々、利用者さんにパワーを貰っています。先日も女性利用者さんの入浴介助を行った際に「アンタ、いい人だね」「好きだわ。ありがとうね」と特別な介助をした訳でもないのに嬉しい言葉を頂きました。

感謝の言葉が欲しくて介護の仕事をしている訳ではありませんが、嬉しい言葉をかけてもらえると自然と心が温まり「この方に関われてよかった」とパワーが出てきます。このパワーを日々のケアに取り入れ利用者さんにお返ししていきたいと思っています。



桜を好きになった日

北医療生活協同組合
生協わかばの里介護老人保健施設
ユニットリーダー 河村 純平



介護施設で勤めてから8年が経ちました。それまでは飲食店で働いており、介護とは関係のない仕事をしていました。21歳の頃、介護やってみる？と声をかけてもらって、ただ何となく介護の仕事を始めました。

当時は介護がどういう仕事なのかもわからないまま、ただ業務を覚えるのに必死でした。

3か月がたった頃、ある利用者さんと散歩に出かけたとき、満開に咲いている桜を見た利用者さんが「綺麗…」と優しく微笑みながら感動して泣かれていました。今まで桜を何度となく漠然と見てきた自分…。普段からニコニコと笑顔が絶えない利用者さんでした。自由が少なく、お散歩やお買い物などあたり前のことが制限されてしまう施設生活。他人との共同生活を送るうえで日々どれほどの我慢をされていたのでしょうか…。桜に対する様々な思い入れがあったのでしょうか。

涙されているのを見て、今まで感じたことのないほど気持ちが高ぶったのを覚えています。

はたして介護とはどういうものなのかと、今一度考えさせられました。施設は私生活から切り離された、暗いイメージがあると思います。介護士はとても忙しく日々動き回っています。

ですがその中でも利用者さん一人一人に向き合って、その人にとって嬉しいことは何か、嫌なことは何か、したいことは何かと考えて寄り添っていくことが本来の介護士としての仕事なのではないかとその方の涙に教えてもらえたような気がします。

それからは、利用者さんに対する気持ちが変わりました。8年経った今もギターを弾き昔懐かしい歌と一緒に歌ったり、四季に合わせ折り紙で花を作りフロアにお花畑を作ったり、利用者さんが笑顔になってもらえることを日々追求しています。桜の感動を沢山の利用者さんに味わってもらえる様、今もあの時と同じ気持ちで仕事をしています。

桜が一番好きな花になりました。



完食されたうどんが 教えてくれたこと

北医療生協
介護老人保健施設生協わかばの里
ユニットリーダー 大西 晴奈



介護士になって2年目の頃、当時働いていた施設で看取りケアに関わる機会がありました。当時のわたしは、ターミナルケアのように身体的・精神的ケアの必要性は感じつつも、看取りケアが具体的にどのように入所者様へ作用し、入所者様やご家族様へ受け入れられるのかよくわかっていませんでした。

「入所者様が今一番したいことは何か」。入所者様とご家族様へ情報収集をしていくうちに、うどんが好きでご自宅でもよく食べていたことがわかりました。しかし、入所されてからは徐々に嚥下機能が低下し、食形態の変更をせざるを得なくなり、刻み食を提供していました。施設で刻まれたうどんが提供されても、「こんなのはうどんじゃない」と怒って残していました。

好きなうどんを刻まずにどのように提供するか、看護・栄養士と何度もカンファレンスを重ねました。そして、やわらかく茹でるなど工夫し、看護・介護が付き添う中うどんを提供することができました。正直、この取り組みについて、過程はあまり思い出せません。ただ、結果としてよく覚えているのは、入所者様の笑顔と完食されたうどんです。

看取りケアで大切なことはやすらぎの提供と人間としての尊厳を守ることです。必ずしも要望に沿ったケアができるとは限りません。しかし、要望の実現へ向かい介護が中心となり多職種へ働きかけ、入所者様へ好きなものを提供することができたこと。最期の時を迎えるその日まで、人の気持ちに寄り添える介護という仕事は、すてきなと改めて思いました。

介護士として経験が浅い中看取りケアに関わることができたことは、とても貴重な体験だったと感じています。



目に見えないご褒美

北医療生活協同組合
生協わかばの里介護老人保健施設
介護福祉士 福江 景子



私が介護の仕事に就きたいと思ったのは40歳。

それまでは営業の仕事をしていましたが、ある事がきっかけで介護士になりたいと思い続け、営業職をしながら2年間自分なりに勉強し、思いが変わらず42歳念願の介護の道へ入りました。

介護の仕事をはじめた時に驚いたのは、認知症の方よりも、介護士のモチベーションの低さでした。自分の仕事がどれだけの価値をもたらしたかわからないというのが大きな要因の一つ。営業のように数字で表せれるものがない、相手が認知症だから価値や評価も客観的に知ることなかなか難しい…という声をたくさん聞きました。

三年半年前にわかばの里に入職し、1年目にレクリエーション委員を任される事になりました。主な仕事は、フロアでの毎日レクや行事レクを企画しています。

皆さんで行事やレクを行っているところの写真は、毎月「ほのぼの」という施設便りに掲載し、家族様へ送付しています。

反響が気になっていたところ、ある利用者様の娘さんが面会に来られ「うちの母、一丁前にまだこんな事やるんだね！この写真、近所の人達に見せて回りたいの、懐かしい母の顔だわ・・・ありがとね」とお祭りの射的屋台で、一発で仕留めてやろうと狙う表情や姿に驚き、写真の掲載や行事の開催に大変感謝されました。

認知症になった100歳近くの母親のきりっとした表情は、現役の時の母親の顔を思い出されたに違いありません。

そのうち他の家族様からも反響があり「ありがとうございます」という言葉を沢山いただきました。その言葉は、私の次への活力になり、介護の質を高める努力ともなっています。

利用者さんからも「いつも花や飾りを作ってくれる先生、来月は春やで桜作ろうね」「あの人ね、小さな手だけど、手先が器用な先生だよ。いつもたくさん作ってくれてありがとね」いつもあの先生、と名前は記憶できない方もいますが、私の事はわかっています。

そして何よりも「いつもありがとね」と言われると疲れが吹っ飛び、幸せな気持ちになります。

数字などで目に見える評価はない仕事ですが、利用者様やご家族様から感謝の言葉を沢山いただける仕事です。

「最も人を動機づけるのは目にみえないご褒美。」

自分が充実感を持って夢中になれることには、内的なご褒美が何よりも次への仕事へのモチベーションとなっています。

感謝の言葉は私にとってどんなものよりも勝る報酬です。



ヘルパーの楽しさ

医療法人名南会
ヘルパーステーションひなた
介護福祉士 佐藤 さや花



私は医療法人名南会で勤務して今年で10年目になります。
この10年で経験した部署は、老人保健施設から始まり、デイケア、ヘルパーです。正直何度も介護職から離れて華やかな職業に就いてみたいと憧れた事はありませんが、私がこうして現在も介護職を続けられている理由があります。

私は現在ヘルパーステーションで勤務していますが、毎日訪問する先での支援に変わりがあって、新たな発見が出来るヘルパーならではの利用者さんとの関わりが持てるととても面白い場所だと思っています

慣れ親しんだ自宅での生活はみなさんそれぞれ個性があります。その個性に合わせて支援を行う難しさや辛さがありますが、訪問すると待ち構えていたように喜んで下さったり、「今日は一緒に○○をやりたい！」と言われると、よし、今日もこの人の為にこんなことをやってみよう！などと意気込みさえしてしまいます。

私が援助で向かう方の地域では、買い物難民と言われる所があります。高齢者が多く住み、道も開けておらずスーパーまでがとても遠く、高齢者1人で買い物に行くにはとても大変な所です。その為、援助で買い物代行に行く事も多くあります。そんな買い物代行を行うと、「本当にヘルパーさんには助かる。自分じゃ買い物に行けれんもん。感謝だわ。」と言って下さいます。出来ない事、出来ない所を支援する。それがヘルパーとしてのやりがいだと感じます。

今後も利用者さんが慣れ親しんだ自宅での生活が継続できるよう、ヘルパーとして関わり、支援をして行きたいと思います。



モットーにしている事

医療法人名南会
名南ふれあい病院介護医療院
介護福祉士 松下 啓泰



私は介護の仕事をして19年目になります。振り返るともう19年。若者からおじさんになりました。

この仕事を始めるきっかけは同居していた祖父・祖母の影響が大きく、小さい頃にやさしくしてもらった事で何か恩返しをしたいとの思いで学校に行き始めました。

就職して色々な方との出会いがあり、「〇〇くん、いつもありがとう」と言われる言葉が自分の祖父・祖母に言われているようでうれしく、やりがいを感じていたのを今でも覚えています。

そんな私を大きく変えたのはある利用者様との出会いでした。癌を患ったターミナルの女性利用者様です。性格はとにかく意地っ張りで弱音を吐かない人でしたがある日、夜勤をしていると「胸が痛いの。不安で眠れないの」と言われました。

ベッドサイドに座り背中を摩って昔の話をしていると「ああ、ほっとする。私もう死ぬ？」と涙を流されました。30分程側にいると眠り始めました。

私たち介護士は、いつも利用者様の近くに居ます。利用者様の本音をいつも側で聞ける大事な仕事だと思っています。普段の何気ない会話や表情からいつも寄り添える介護士であるべきだなと私は思っています。

私の中で仕事を始めてからずっとモットーにしている事があります。「この人に出会えて良かった」と思ってもらえる介護士になることです。

おじさん介護士になりましたが、初心の気持ちを忘れずにこれからも介護をしていきたいと思えます。



利用者様の思いに応える

医療法人名南会
名南介護老人保健施設かたらいの里
介護福祉士 伊藤 勇一



私は介護の仕事をして始めて15年になります。

元々、介護ではない仕事に就いていましたが、25歳の時に未経験でこの仕事に飛び込みました。ヘルパー2級を受講しながら仕事をし、その後も経験を積み介護福祉士の資格を取得しました。

しかし、8年ほど前に多忙から以前の職場を退職しました。悩みましたが、これまでのことを思い返しながら、「もう一度だけ介護の仕事をしよう」と名南会へ入職をしました。

老健の認知症専門棟、一般療養棟で様々なことを経験させて頂きました。その中で、今も私が忘れられないエピソードがあります。

入職後、2年ほど経った頃、職員数名が参加し「喫茶店レクリエーション」を行いました。内容としては喫茶店の雰囲気を作り、ドリップしたコーヒーを振る舞うといったものでした。

多くの利用者様が本格的なコーヒーの香りに喜ばれていました。その中でも、A様という利用者様は当時私が担当していないフロアの利用者様でしたが、とびきりの笑顔で「美味しいね」と話されていたのが印象に残っています。また、数年後に私がそのフロアへ異動すると「あんたは喫茶店をやってくれた人だね、今でも覚えてるよ本当に良かったよ、ありがとう」と話してくれました。その後も、何度もA様より感謝を伝えて頂きましたが、他の職員からもレクリエーション後からよく私のことを話していたと聞きました。

私はA様に喜んで頂いたことを嬉しく思うと同時に、これまでのケアについても「利用者様の思いに答えられているのか」と振り返りました。A様は私にその機会を与えてくれたのです。

「利用者様の思いに答えられているか？ 独りよがりなケアになっていないか？」常に問いかけ、介護を続けていきたいと思えます。



「介護のやりがい」

尾張健友会 千秋病院デイケア

介護福祉士： 新川 美保

共同制作者

介護福祉士： 佐藤 美奈子 長澤 直美 松平 昌美



私たちは学校卒業と同時に介護の道に入った者、一旦は他の職に就いていたが楽しそうと興味を持って介護の道に入った者、将来は人のお世話をするような仕事に就きたいという思いを持ちながら、介護にたどり着いた者、人と関わる仕事がしたいと思って介護の道を選んだ者と、いろいろな経緯を経て今一緒に働いています。

やりがいを感じる場面というのはそれぞれ違うと思いますが、思い出すエピソードはいくつかあります。

『仕事が辛く、弱音を吐いてしまった時、利用者様に「仕事はやりたくてもやれなくなる時がいつか来るからやれるときに頑張りな!」と言われ、元気づけられたことが大きな糧になった』、『レクリエーションで利用者様が笑って下さり、「今日は楽しかったよ」と言って頂けることが嬉しい』、『利用者様が目標達成に向けて頑張っているのを、支援しながら、達成することができた時の喜びを一緒に味わうことができた』、また『夫がデイケアに来るのが楽しみで一度も休まなかった、本当に感謝しているとのことのお言葉を奥様から頂いた』ことなどです。

デイケアは利用者様が帰られた後に、フロアの掃除や会議、書類仕事などを行っており、どうしても残業になってしまうことが多くあります。時には心が折れそうに疲れてしまうこともありますが、心折れずに頑張れるのは、千秋病院のデイケアがいい、楽しい、と言って下さる利用者様とご家族様、信頼できる心強い仲間がいるおかげだと思っています。

自分が誰かの役に立っていると実感できることが嬉しく、達成感があるこの仕事をこれからも続けていきたいと思っています。



わたしの介護の原動力

尾張健友会
特別養護老人ホーム・ちあき
介護福祉士 柳原 あこ



私が介護を続ける理由は3つあります。

1つ目は職員全員で情報共有をして驚き、喜び合うところです。歩けないと思っていた利用者様が実際歩行器で試して歩いてみたらうまく前に足がでたり、認知症や身体の障害を患った方にいろいろな角度からできるところを見つけ出していくことです。

2つ目は、利用者様や家族様に直接「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えてくれるところです。利用者様のことを考え物品を依頼したり、家族様に相談した時や介助を行ったときにありがとうと言って下さることが嬉しいです。

3つ目は、介護だけでなくそれぞれの専門職の観点から意見を頂き、利用者様の為に考えて取り組んでいくこと、またその取り組みによって利用者様の毎日の表情、良くなっていく過程をみるのが嬉しいからです。

そして最近ですが、私の担当していた利用者様が先日お亡くなりになりましたが、看取りの同意書を頂いてから亡くなるまでに担当中心で情報展開し、他職種で沢山意見を出し合いました。本人の思う最期をどのように迎えたいか考えた時に息子様が『昔僕の弾いていた三味線で母が着物を着て踊っていた』と言った事からもう一度実現できないかと思い、家族様と相談しました。亡くなる前日に息子様が三味線を持ってきて下さり、昔着ていた着物を着る事が出来ました。演奏中はお嫁様が母の手を握り、その間酸素濃度がだんだん上がっていき、100%になった事がすごく感動しました。

最期を迎えた時に家族からは涙ながらに『ありがとう』と感謝の気持ちを伝えて下さった事が本当に改めて介護士として働けて良かったと思いました。

家族、利用者様に介護士として一番近くで寄り添えてよかったなと思いました。



「ありがとう」

尾張健友会
ヘルパーST
サービス提供責任者 岩崎 浩大



「介護の仕事が続けられたのはどうしてですか？」
文字にするとなかなか難しいものです。利用者様からの「ありがとう」です、と答えても使い古されていて陳腐に聞こえてしまいます。

私が介護の仕事始めてしばらくの間は、本当に苦痛でした。未経験で飛び込んだ老人ホームでは、厳しい指導を受けて心が折れそうでした。

それが変わったきっかけはたった一言でした。とてもコーヒーが好きな方がいて、ドリップのコーヒーを希望されていました。味が気に入らないと一口飲んで無言で部屋に戻るような厳しい方でした。私は普段から飲み慣れていたので、いつも通り焙れてお出ししていたのですが、ある日「あなたの焙れるコーヒーは美味しい。いつもありがとう。」と声をかけて頂きすごく自信になったのを覚えています。同僚からもその人のコーヒーを用意する仕事を任されるようになり、一つの自信が他の業務にも影響して堂々と仕事ができるようになりました。今思えば、そのたった一言がなければ辛くて仕事を続けていなかったかもしれません。

特養やデイサービスでも働き、今は訪問介護で働いていますが、どんな形態のサービスでも結局私の原点は変わらないのだと思います。

「お風呂が気持ちいい、ありがとう」「今日のレクは楽しかった、ありがとう」
「買い物してきてくれて助かる、ありがとう」

文字で表すとまったく伝わる気がしません。興味のある方は是非介護をやってみてください。実際に耳で聞くと伝わると思います。今現場にいる方は今度言われたら良く聞いてみてください。使い古された「ありがとう」も心がこもっていればこんなに素敵響きになります。

私が介護の仕事が続けられた理由はそれだけです。



わたしが 介護士を続ける理由

尾張健友福祉会
岩倉小規模多機能ホーム・ちあき
介護福祉士 仲山 恵里



介護の仕事をはじめた15年目、尾張健友福祉会に入職し10年目になります。
私が介護士を目指そうと思ったのは中学生の頃ボランティアで老人施設を訪問したのがきっかけで「人の役にたつ仕事がしたい!」と思ったからです。

介護の仕事は利用者さんの「今」をサポートする事ですが、今につながる「過去」を知る事が支援内容に大きく影響していると思います。「昔はお化粧品して名古屋で勤めていたのよ」と教えてくれた方にマニキュアを施した時、満面の笑みで「わぁ～きれいだね」と目を輝かせて喜ばれていたり、買い物に行った時には店員さんから指先を褒められると自慢気に「可愛いでしょ」と笑顔で対応されている姿を見てとても微笑ましく思いました。

62歳の時仕事中に突然倒れ長期の入院生活から自宅に復帰した方は、生きがい喪失となってしまう漫画や雑誌で埋もれた布団の中で死にたいと考える毎日でした。毎日の訪問支援を行い信頼関係を深めていく中で「プラモデルがやりたい」と何気なく話されたことから、なじみの模型店へお連れし作製する模型を一緒に選びました。模型を作製する為に部屋の掃除や模様替えをするなど生活意欲が少しずつ湧いてきた様で、現在では働きたいという言葉が出るようになりました。

日常の小さな出来事に私たちが気づきサポートする事で利用者の生活の質が上がったり生活が充実していくのを見て介護職としてのやりがいが増えこの仕事の楽しさを感じる事ができました。

休みの日は買い物やグルメ活動、睡眠時間を優先する私にとって介護の仕事はプライベートも充実できる魅力的な職業だと考えており、これからも続けていきたいと思っています。



笑顔を絶やさないよう

尾張健友会
老健けやき
介護福祉士 坂川 晴美



写真左側が坂川さん

老健では在宅を希望される方に対して家族様やご本人様の希望に沿った介護、老健の理念である「その人らしさを大切にしたい家庭的な老健を目指します」を大切に日々、多職種と協力しその方の希望に沿った支援を行っています。

利用者様の多くは、家に帰りたい。家族と会いたい。とお話しされます。老健で最期を迎えられる方もみえ、最近、印象に残っている方は、認知症の方、女性で「助けて下さい」をずっと訴えられる方で、職員が側で話し相手をしたり、歌を歌ってもらったり、一緒に行動をして、お手伝いをしてもらい落ち着いてました。

そして、その方が脳梗塞を発症し食事が摂れなくなり、言語障害がありました。90歳代という高齢の方でもあり、回復は難しかったです。家族様の希望もあり、老健で最期を迎えてほしい。という希望もあり老健に再入所されベッド上の生活がはじまりました。声かけすると頷いたり、何かを話しをしようとする表情は読み取れ、職員の顔を覚えてくれてた様子でした。

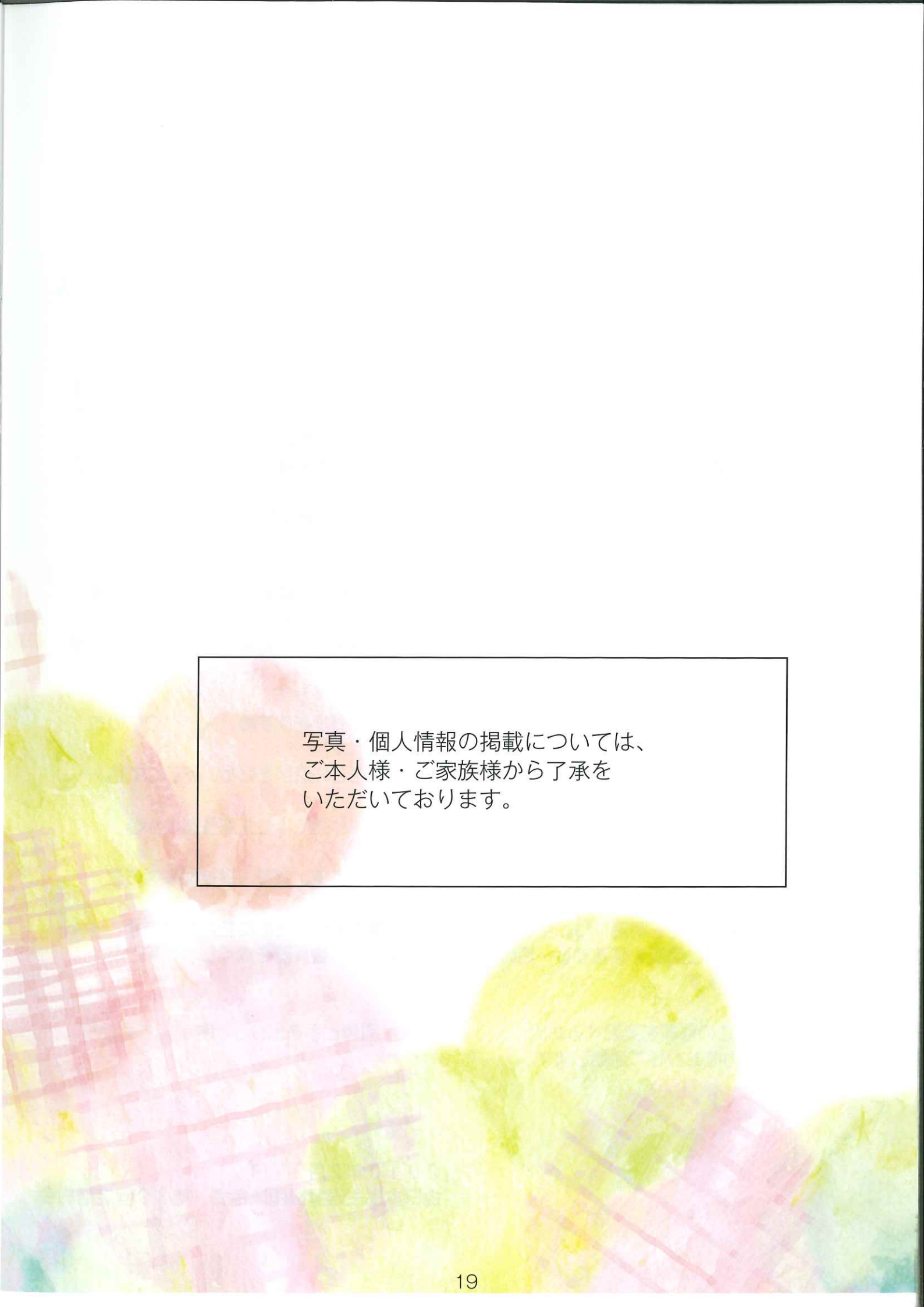
食事は摂れなかったもので、この方の今の楽しみはなんだろうか？と考え、以前、入所されてた頃は歌を歌うのは好きな方だったので、ベッドで食堂へお連れし、他利用者様で歌が好きな方2名に歌を何曲か歌ってもらいました。すると、表情良く口を動かされたり、頷かれ、涙を少し浮かべてみえました。その方は、施設で最期を迎えられました。

介護をさせて頂くうえで、本当に利用者様の望みなどに沿ってケアをおこなう事ができているのか、正解が分からない時が多々あります。

だからこそ、今後もご本人様や家族様とのコミュニケーションをとって行きたいと思います。

老健では、在宅へ帰られるよう支援も行っています。その方々の支援は何通りもあります。その方に合わせて、一緒に取り組んだり、コミュニケーションを通して得られる情報もあり、その人らしく生活がなるべく送れるよう支援をさせて頂く事がやりがいでもあります。

笑顔を絶やさないよう...



写真・個人情報の掲載については、
ご本人様・ご家族様から了承を
いただいております。



民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

- 一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
- 一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
- 一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
- 一、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
- 一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

2010年2月27日
全日本民主医療機関連合会 第39回定期総会



愛知県民主医療機関連合会

〒456-0006

愛知県名古屋市熱田区沢下町9-3 労働会館本館3F

TEL 052-883-6997 FAX 052-889-2112